

女子たちは こう見ている 「その輝きが好きです」

薄毛は女性に嫌われる。薄毛に悩む男性諸氏は、そんな固定観念に捉われてはいないか。だとしたら、そんな固定観念は早く捨てたほうがいい。

服飾史の研究者で、明治大学国際日本学部特任教授の中野香織氏は、一現代の日本には、薄毛を肯定的に見る社会的素地があるの

で、昔ほど悩む必要はない」と断言する。
「日本では古来『武士は鬢を結えなくなつたら終わり』とか、『力士は鬢を結えなくなつたときが引退の時期』といったように、薄毛・ハゲル終焉のイメージがありました。それが日本人男性に、髪が薄くなることへの恐怖を感じさせたのでしょう。しかし、それは過去の話。むしろ今日では、すっぱんを公開する女性が「格好いい」と憧れの対象

になるように、ありのままを曝け出すほうが好印象をもたれるのです」

これを裏付ける、興味深い調査結果がある。女性の意識調査を行う大手サイト「オトメスゴレン」によると、薄毛の男性に対して「知的で仕事ができそう」(男性ホルモンが多くて男らしい)、「年齢を重ねることに決みが出そう」など、好意的な印象をもつ女性が多数存在した、というのだ。「ピッチの触り方」の著者で女性の恋愛事情に詳しい、著述家の湯山玲子氏は、こう分析する。

「市川海老蔵の登場を境に、日本でも『薄毛・ハゲ』が格好いいと捉えられるようになり、薄毛男性を見る女性の目が変わったように思いますね。」
それ以降、プーチン大統領や孫正義社長など、仕事

ができて、頼りがいのありそうな薄毛の人がたくさん登場し、「薄毛＝有能」という記号的刷り込みが女性の間でなされつつある、と言ってもいいでしょう」

渋谷のエステサロンに勤務する秋川奈緒さん(30歳・仮名)も、薄毛男性に好意を寄せる女性の一人だ。

「ビシッと髪を整えている男性よりも、薄毛の男性のほうが『隠し事のない、気取らない人』と思えて、心を許してなんでも話してしまふんです。特に家庭を持っている人の場合、『家で子供達に冷たくされているのでは』と想像すると、私だけでも優しくしてあげななきゃ、と愛着が湧いてくるんです。同じ意見をもつ女性は多いと思いますよ」

美容室検索サイト「ビューティーナビ」が20・30代女性に行ったアンケートでも、「好きな人の髪が薄くなったかどうか?」との問いに、50%が「気にしない」、20%が「一緒に考える」と実に70%が前向きな回答をしたという。これは薄毛

に悩む男性にとつて、うれしい話だろう。

この結果について、政治家や企業社長のイメージコンサルティングを行う乳原佳代氏は次のように語る。

「薄毛の人はそれがコンプレックスになつて、コンプレックスと自分を隠そうとしてしまふ。最も悪いのは、彼女ができないとか、仕事ができないのを薄毛のせいにしてしまうことです。女性からすればその後ろ向きな態度がマイナス印象、というだけなのです。薄毛に悩む方には、『捉え方によっては、薄毛は個性にもなりません。まずはマイナス思考を止めませんか』と諭して、前向きに考えてもらうことから始めます」

一流企業の研修を受け持ち、服装についての個人向けアドバイスも行うパーソナルスタイリストのrisa氏も、こう話す。

「毛が豊富な人は、頭に黒色があるの、明るい色だけの服の組み合わせでは浮いてしまう、ということがあります。しかし、薄毛

の人は全体に明るい色をコーディネートしても違和感がない。たとえば、俳優の高橋克実さんはよく鮮やかな色の服を着ていますが、まさにこの方法を使つて、好印象を与えています。薄毛の人はちよつとギャップを見せるだけでオシャレに見える。女性の好感度を高めるのに高度なテクニクは必須ではないのです」

あなたの周りには、薄毛を「毛嫌い」する女性もいるだろう。だが、前出の中野教授は「その逆境」を受け入れて、楽しむことこそ男の美学」と断じる。

「男の魅力をつくるものに『ダンディズム』がありますが、それは、コンプレックスを笑い飛ばし、克服することで、弱点を長所に変える個性的な生き方から生まれてくるものなのです。

薄毛やハゲに悩む人は、逆に『自分にはダンディズムを発揮するチャンスがある』と考えるべきです」

薄毛男性が光り輝く時代が、本当に来ているのかもしれない。